

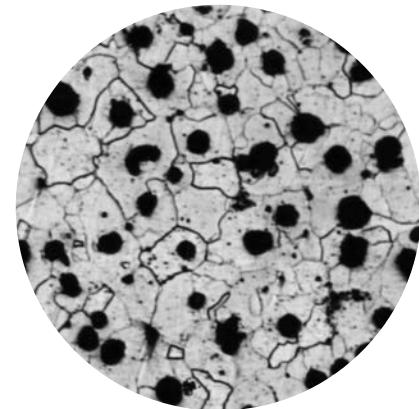
# 柔軟で高強度なダクタイル鋳鉄製 強靭バルブ

蒸気、高温水、油、ガスなど水や空気などの流体に比べて「危険性の高い」流体や「高温・高圧」流体には、ダクタイル鋳鉄製バルブをお奨めします。

東洋 ダクタイルバルブの材料は、「球状黒鉛鋳鉄品」(JIS G5502)及び「ダクタイル鉄鋳造品」(JIS B8270<sup>-1993</sup>)として、特に靭性を改善した鋳鉄材料です。

一般的に、蒸気、高温水、油、ガスなど水や空気などの流体に比べて「危険性の高い」流体や「高温」流体には、鋳鋼やステンレス鋼などの鋼材(ハガネ)製バルブを利用しますが、これらの鋼材は、価格が高いことが難点です。

ダクタイル鋳鉄は、「鋼」の持つ強靭さと「鋳鉄」の持つ経済性とを併せ持った優れたバルブ材料です。当社のダクタイルは、「圧力容器の構造」JIS B8270<sup>-1993</sup>「圧力容器の構造」で一定以上の球状化率が規定される「FCD-S」を採用しています。



ダクタイル鋳鉄の金属組織

ダクタイルバルブは、消防法に規定される  
「危険物貯蔵タンク元弁」として使用できます。

消防法に規定される「危険物の規制に関する政令」では、屋内外の危険物貯蔵タンクの元弁として使用するバルブは、鋳鋼製と定めていますが、昭和42年5月20日自消丙予発第32号通達により、ダクタイル鋳鉄製バルブも鋳鋼製と同等以上の性能があるものと認められており、この設備の元弁として法規上利用することができます。

## 関連規格

ダクタイルバルブは、JV(社団法人 日本バルブ工業会)でも規格が整備されています。この規格は、1991年3月に制定されました。

このJV規格には、「ダクタイル鉄」の他に「可鍛鋳鉄」、「球状黒鉛鋳鉄」、「マレアブル鉄」など、ダクタイルと同種の強靭鋳鉄材料も同時に規格に採用されました。

建築設備におけるデファクトスタンダード(業界標準)と位置付けられる「国土交通省 公共建築工事標準仕様書 機械工事編」にも、このJV規格がほとんど採用になっていますので、ダクタイルバルブは、各種設備用バルブとして安心してご利用いただけます。

東洋ダクタイルバルブは、特に、「高層ビル」など10Kを超える圧力レイティング(16K、20K)のバルブ・ストレーナを幅広く品揃えしていますので、多くのビル設備で豊富な実績を有しています。

## JV(社団法人 日本バルブ工業会)規格 ★規格番号および規格の名称( )内は略称

- JV4-2 鋳鉄弁—可鍛鋳鉄および球状黒鉛鋳鉄小形弁(MD小形弁)
- JV4-3 鋳鉄弁—可鍛鋳鉄および球状黒鉛鋳鉄弁(MD弁)
- JV4-4 鋳鉄弁—マレアブル鉄およびダクタイル鉄小形弁(MDS小形弁)
- JV4-5 鋳鉄弁—マレアブル鉄およびダクタイル鉄弁(MDS弁)

当社製品の多くは上記規格に適合もしくは準拠しています。

## 活躍するダクタイルバルブ

